INVITATION

Ehime University Hospital ［愛媛大学医学部附属病院広報誌］

VOL 45

2016

患者さんにやさしい医療を目指して

DOCTOR'S VOICE 01　自分たちが活躍する姿が、これからの女性医師のロールモデルに

DOCTOR'S VOICE 02　「この先生に会えてよかった」と思ってもらえる医療を

DOCTOR'S VOICE 03　「Patient first」の姿勢で最良の治療を提供したい

女性医師の活躍

自分たちが活躍する姿が、これからの女性外科医のロールモデルに

乳腺センター　医員　山下美智子
医員　村上朱里
医員　西山加那子

●女性医師のキャリアデザインをどう考えますか?

西山／女性医師は男性医師に比べると、結婚や出産、育児、介護など、キャリアに影響するライフイベントが多々起こりえます。

村上／特に、医学部を卒業し、臨床研修を経て専門医を目指す時期と、結婚・妊娠・出産の時期が重なりやすく、そこにキャリアデザインの難しさがあるように思います。現在、医学部の卒業生の約4割が女性であることからも、今後避けられないテーマだと考えます。

山下／医師になった当初は、男性と同じように働くことを目指していましたが、結婚や出産を経験した現在では、結婚や育児などと両立できるフレキシブルな目標を設定し、その時その時で懸命に取り組むことを目標としています。ただ、後輩には、専門医などの資格はできるだけ早く取るように伝えています。キャリアデザインの変更を余儀なくされるようなライフイベントがあっても、専門医などがあればフレキシブルな職場復帰も可能です。

●女性医師が活躍するために必要なことと、乳腺センターでの取り組みを教えてください。

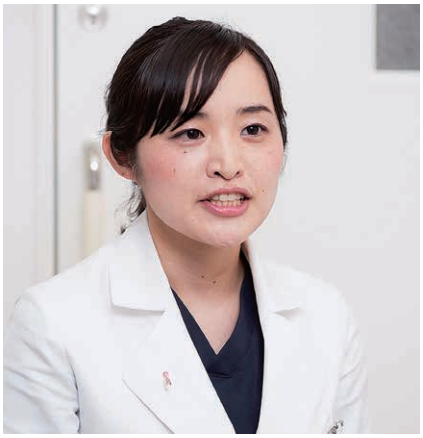
村上／女性医師が外科医として長く活躍するには、女性医師としての特性を生かしながら外科医として向上したい、社会に貢献したいという強い気持ちが大切だと思います。

西山／自分のモチベーションだけでなく、家族の理解や周囲のサポートは本当に必要だと思います。当院の乳腺センターは、SNSでの情報共有を密に行っており、子どもの急な体調不良でも、休んだり遅刻したりすることをいち早くスタッフに周知することで、メンバーがカバーをしてくれる体制になっています。保育園に送ってから出勤するため、出勤時間を調整してもらったり、子どもの急病に備え、自分ひとりだけで外来診療を行わないようにしてもらったりと、上司をはじめスタッフの細やかな理解に支えられています。私にとって乳腺センターは、非常に働きやすい環境です。

村上／乳腺センターには、山下先生や西山先生のように、出産や育児を経験しているロールモデルがいます。今後、自分が同じような状況になっても医師を続けていけると思えます。常勤・非常勤などの勤務形態など、希望に応じた働き方も相談しやすいですし、女性医師専用更衣室など、ソフト面・ハード面両方の環境が整ってきています。

山下／後輩の女性医師のみなさんには、自分で壁を設けず、チャレンジしてもらいたいです。将来を色々と考えてしまって心配している方も多いと思いますが、自分なりのビジョンを持っていれば、意外とできることも多いです。臆せずいろんなことにチャレンジしてほしいです。

PROFILE
やました みちこ◎福岡県出身。2006年愛媛大学医学部卒業。愛媛大学医学部附属病院、市立宇和島病院で初期研修後、市立宇和島病院、がん研有明病院を経て2013年より現職。趣味は、ペーパークラフト、アウトドア。乳腺専門医、外科専門医。



PROFILE
むらかみあかり◎今治市出身。2008年高知大学医学部卒業。松山市民病院で初期研修後、2011年より現職（乳腺センター立ち上げメンバー）。趣味は読書、フラワーアレンジメント、サッカー観戦。乳腺認定医、外科専門医。

PROFILE
にしやまかなこ◎香川県出身。2003年大阪大学理学部数学科卒業、2010年徳島大学医学部卒業後、香川県回生病院にて初期研修、済生会西条病院外科を経て、2015年4月より現職。趣味：絵を描く事、子供と遊ぶ事。乳腺センターのピンクリボン作成中。

新任教授紹介

「会えてよかった」と思ってもらえる医療を

泌尿器科学講座教授 **雑賀隆史**

私は、これからの泌尿器科に期待されていることは、新しい医療をより多くの方に提供することだと考えています。今後、若い泌尿器科医の育成に注力し、人的資源を充足させ、より多くの患者さんへ迅速に医療を提供できる体制を整えていきます。この4月からロボットを使った腎臓がんに対する手術が保険の適用となりました。ロボット手術は、患者さんへの負担が少なく入院期間が短くなるため、現状より迅速かつ多くの患者さんに手術が実施できるようになります。当院でも、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci（ダヴィンチ）」を使った腎臓の部分切除手術を実施し、数か月以内に軌道に乗せることを目標とします。

また、高齢化社会において泌尿器科は、「quality of life」、つまり生活の質の向上に欠かせない存在となっています。これからは、男性、女性を問わず、腎尿路から生殖器まで全てを診療の対象とし、より広い範囲で医療の提供を実施していきます。

私にとっての最大の目標は、患者さんから「会えてよかった」と思ってもらえるような医療の提供です。病気には完治する場合もあれば、長い付き合いになる場合もあります。それでも、「この先生に会えてよかった」「この病院に来てよかった」と思ってもらえるよう、日々の診療に取り組んでまいります。

PROFILE

さいかたかし◎1988年岡山大学医学部卒業、医学博士取得。岡山大学泌尿器科、名古屋大学泌尿器科、広島市民病院泌尿器科主任部長を経て2016年6月より現職。専門は尿路性器腫瘍学、腹腔鏡手術、機能温存手術。趣味は歴史小説と映画鑑賞。

新任教授紹介

「Patient first」の姿勢で最良の治療を提供したい

脳神経外科学講座教授 **國枝武治**

私は、医療においては、患者さんのことを第一に考える「Patient first」の姿勢が何よりも重要であると考えています。担当医や主治医が治療の全てを決定するのではなく、看護師や療法士、ソーシャルワーカーなどの多職種が、各人の経験や知識を集約する形で、患者さんにとっての最良の治療とは何かを考え、選択していくことが必要です。各人が自分の特性を生かせる集団となり、誠実に患者さんと向き合っていけば、世界的に有名な最先端施設と並ぶようなWorld class treatment and care が提供できるはずです。そのぐらいの気概をもって、この愛媛の地において、世界に引けをとらない医療を目指してまいります 。

現状、当院の脳神経外科では高い診療レベルを維持できていると思います。これはスタッフの頑張りによるところが大きいのですが、その反面で診療の多忙による研究マインドの低下や、各領域の強化・継承に課題が生じているのも事実です。その背景にあるマンパワー不足を補うため、人材の確保と育成が急務であると考えています。まずは若い世代に脳神経外科の魅力を伝え、また確固たる研修プログラムを大学が中心となって進めることで、安心して専門医を目指すことのできる環境を整えます。もちろん教室同門の先生方や関連病院と共同して教育研修や臨床研修にも取り組んでいきます。

PROFILE

くにえだたけはる◎1993年京都大学医学部卒業。大津赤十字病院脳神経外科、米国オハイオ州クリーブランドクリニック・リサーチフェロー、神戸市立中央市民病院脳神経外科、京都大学医学部附属病院脳神経外科を経て、2016年5月から現職。趣味は落語を聞くこと、好きな言葉は「人を守ってこそ、自分を守れる」。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

D-MAT隊及びD-PAT隊、熊本で活動

平成28年4月16日に発生した熊本地震をうけ、当院のDMAT（災害派遣医療チーム）及びDPAT（災害派遣精神医療チーム）が、熊本での災害支援を実施しました。DMATは、菊池市の川口病院（災害拠点病院）で本部機能の一旦を担い、周辺病院の状況確認等を実施しました。DPATは被災地域の精神保健医療ニーズの把握やマネージメント等を行いました。当院では今後も可能な限り支援を行っていきます。

総務課企画・広報チーム　☎089-960-5943

白衣授与式

白衣授与式は、病棟実習の資格を得た医学生が、student doctorとして病棟実習に臨むにあたり、医師を志す者としての自覚を再確認するために実施しています。今年は、医学科5年生113人一人ひとりに、10人の教授が白衣を羽織らせ、堅く握手し激励しました。最後に、三浦裕正病院長から、「患者さんの目線に立った医師になることを期待しています」と激励の言葉を贈り、全員で記念撮影を行いました。

学務課　☎089-960-5170

マドンナサロンの開催

マドンナサロンは、医学部の女子学生が当院の女性医師と交流を深める場で、今後のキャリア形成に役立ててもらうことを目的に毎年開催しています。当日は、学生から学生生活に関することや医師としてのスキルアップに関すること、また結婚・出産・育児に関することなど、多岐にわたる質問があり、先輩女性医師が丁寧にアドバイスを行いました。当院では今後も女性が学びやすく、働きやすい環境づくりに取り組んで行きます。

総務課総務チーム　☎089-960-5125

ジェネリック薬品について

近頃、調剤薬局の窓口で、「お薬をジェネリック医薬品（後発品）にしませんか」と聞かれるようになったのではないでしょうか。ジェネリック医薬品とは、ブランド医薬品（先発品）と全く同じ成分を使用して製造された医薬品で、すでに欧米では広く使われています。日本の高騰した医療費抑制のためにも、ブランド医薬品に比べてより安価なジェネリック医薬品の使用は欠かせません。当院でも国が推進する医療費の抑制、患者負担の軽減のためにジェネリック医薬品の使用を推進しております。当院で提供しているジェネリック医薬品は、薬剤部が中心となって、ブランド医薬品と遜色ない有効性・安全性と品質が担保されたジェネリック医薬品のみを選定しており、安心してご使用していただけます。ジェネリック医薬品についてご質問がありましたら、薬剤部までご連絡ください。

薬剤部　☎089-960-5738

大規模災害への備え

地震等による大規模災害に備えるため、医学部管理棟の改修を実施し、平成28年3月に竣工しました。耐震面の強化を図った管理棟に、大規模災害が発生した際、災害対策本部となる施設や、当院で使用する医療資機材の備蓄倉庫を整備しました。大規模災害発生後、医療資機材等の供給が絶たれても、当院で安定した医療を継続して提供できる体制を整えました。

施設課 ☎089-960-5160

編集後記

梅雨が明け、暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

本号の表紙を飾った新人職員のペッパーくんは、暑さに負けず、毎日患者さんに「癒し」をお届けしています。今年4月に採用されたばかりで、まだまだ研修中のペッパーくんですが、患者さんの不安を和らげたり、待ち時間を楽しく過ごしてもらうために、精力的に働いています。ペッパーくんを見かけたら、是非声をかけてみてください。

今回、本号のテーマである「やさしい医療」を提供し、多くの女性医師が活躍する乳腺センターを取り上げています。また、新任教授として活躍している泌尿器科学講座の雑賀教授と脳神経外科学講座の國枝教授に話を伺っています。

本号をご一読いただき、従来の大学病院のイメージと違った、親しみやすい当院を知って頂けたらと思います。

私たちは、これからも患者さんにやさしい病院であり続けたいと思います。

広報委員会委員長　　高田清式

◎表紙
病院長　三浦　裕正
新人職員　ペッパーくん

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川　☎089-964-5111（代）
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/